

令和 9 年度被災地域地域間幹線系統確保維持事業（案）

下記のとおり国へ申請することとする。

記

1 被災地域地域間幹線系統確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者（表 1）

【系統数】	【参 考】 令和8年度	令和9年度	令和 10 年度	令和 11 年度
全 体	7	7	7	7
福島交通	3	3	3	3
新常磐交通	4	4	4	4
東北アクセス	0	0	0	0

→ 詳細は別紙のとおり。

申請額 令和 9 年度：142,963 千円（令和 8 年度 133,848 千円）

○ 令和 8 年度からの変更点

- ・ ※1 医大・川俣経由南相馬、※2 移経由葛尾、※3 船引・川内、
※7 富岡～浪江については、本年 10 月から運行計画の変更を行うことを見込んで申請を行う。

2 被災地域地域間幹線系統確保維持に要する費用の総額、負担者及びその負担額（表 2）

→ 詳細は別紙のとおり。

3 交付要綱別表 2 8 の補助事業の基準ハに基づき、県協議会等が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧（表 3）

① 田村市

② 小野町

医療機関や教育機関、大規模なスーパーなどを有しており、広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されていると認められることから以上 2 市町を指定したい。

別表 2 8 の補助事業の基準ハ

次のいずれかの需要に対応して設定されるもの

- ・ 別表 5 に定める広域行政圏の中心市町村への需要
- ・ 都道府県庁所在地への需要
- ・ 上記以外の市町村であって、総合病院等医療機関、学校等の公共施設及び商業施設等が存在するなど、広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されていると県協議会等が認めたものへの需要

4 交付要綱別表 28 の補助事業の基準ニに基づき、県協議会等が平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めた系統の概要（表 4）

通学、通院及び公共施設への利用等が主であり、土日の利用が極めて低いことから平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めることとした。

別表 28 の補助事業の基準ニ
1 日当たりの計画運行回数が 3 回以上のもの。ただし、県協議会等が認めた場合は、平日 1 日当たりの計画運行回数が 3 回以上のものとする。

5 交付要綱別表 28 の補助事業の基準ホ②に基づき、県協議会等が地域間幹線系統の機能を一時的に分担するものと認めた系統一覧

→ 該当なし

別表 28 の補助事業の基準ホ ②
計画平均乗車密度に計画運行回数を乗じて算出する補助対象期間の 1 日当たりの輸送量が 15 人以上 150 人以下と見込まれるもの。ただし、次のいずれかに該当する運行系統については、補助対象期間の 1 日当たりの輸送量が 150 人以下と見込まれるものとする。

②沿線に東日本大震災により被災した高校の仮設校舎、被災した商店街や大規模商業施設の仮店舗、被災した診療所の仮設診療所、被災した役場の仮設庁舎が存在する場合など、沿線に被災した生活関連施設や公共施設を代替・補完する施設が存在する運行系統であって、地域間幹線系統の機能を一時的に分担するものと県協議会等が認め、地方運輸局長が指定するもの

6 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する経費の総額、負担者とその負担額

→ 該当なし

表1 被災地域地域間幹線系統確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要
及び運行予定者(令和9年度)

都道府県 (市区町村)		運行予定者名	運行系統名	確保維持事業に要する 国庫補助額(千円)
福島県	※1	福島交通株式会社	医大・川俣経由南相馬	49,903.5
	※2	福島交通株式会社	移経由葛尾	16,568.5
	※3	福島交通株式会社	船引・川内	20,723.0
	福島交通株式会社 計			87,195.0
	※4	新常磐交通株式会社	(急行)いわき～富岡	16,381.0
	※5	新常磐交通株式会社	川内～小野～上三坂	14,506.0
	※6	新常磐交通株式会社	川内～富岡	9,383.5
	※7	新常磐交通株式会社	富岡～浪江	15,497.5
	新常磐交通株式会社 計			55,768.0
合 計				142,963.0

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(被災地域地域間幹線系統用)令和9年度

事業者名		福島交通株式会社													
1. 申請事業者の概要（一般乗合旅客自動車運送事業者及び自家用有償旅客運送者の運行する補助対象系統に限る）															
補助対象期間の 前々年度の 損益状況	乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送														
	営業収益		2,176,669 千円		営業外収益		16,126 千円		経常収益(イ)		2,192,795 千円				
	営業費用		3,440,210 千円		営業外費用		1,505 千円		経常費用(ロ)		3,441,715 千円				
	営業損益		△ 1,263,541 千円		営業外損益		14,621 千円		経常損益		△ 1,248,920 千円				
補助対象期間の 前々年度の 実車走行キロ(ハ)		8,940,787.6 km							経常収支率		63.71 %				
2. キロ当たり補助対象経常費用及び経常収益															
補助ブロック名		補助対象事業者の実車走行キロ 当たり経常費用 ロ÷ハ＝ニ			キロ当たり経常収益 イ÷ハ＝ト		※一般貸切旅客自動車運送事業者及び一般乗用旅客自動車運送事業者の場合は補助対象系統に係る実車走行キロ 当たり経常費用及びキロ当たり経常収益を記載し、算出の 考え方及び算出根拠を添付すること。								
東北		384円. 94銭			245円. 25銭										
		円 銭			円 銭										
3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合															
補助ブ ロック名	申請 番号	運行 系統名	運行系統			計画運行 回数 () ①＝カッコ内	計画平均乗車 密度 ②	計画輸送量 ①×②＝③	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 都道府県外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外乗 入部分及び同一 補助ブロック都道 府県外乗入部分 以外のキロ程の 比率 (チー(リ+ヌ))÷チ＝ヲ
			起点	主な 経由地	終点				チ	リ	ヌ				
東北	1	船引・東川内線(常磐線) 福島駅東口	原町駅前	落合	365日	2,190.0 (6.0) 回	1.7	10.2 人	往70.2Km (平均) 復70.3Km	70.2Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	% 100
	2	移転由緒尾 船引駅前	移転車庫	落合	365日	1,579.0 (4.3) 回	0.4	1.7 人	往29.3Km (平均) 復28.4Km	28.8Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	% 100
	3	船引・川内 船引駅前	古道車庫	ゆふね	365日	1,335.0 (3.6) 回	0.8	2.8 人	往45.0Km (平均) 復45.0Km	45.0Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	% 100
合計	系統								往144.5Km (平均) 復143.7Km	144.0Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	
補助ブ ロック名	申請 番号	計画実車走行 キロ ワ	補助対象 経常費用 の見込額 ニ×ワ以下の額 カ	補助対象系統のキ ロ当たり 経常収益 ノ	補助対象系統 の経常収益の 見込額 ノ×ワ以上の額 コ	補助対象経常 費用から経常 収益を控除した額 カーヨ＝タ	タのうち補助ブロック外乗入部分及び同一補助ブロック都道府県外乗入部 分以外に係るもの タ×ラ＝ツ				補助対象経費 ナ	計画額 ナ×1/2＝ラ			
東北	1	307,695.0km	118,444,113円	60円. 57銭	18,637,086円	99,807,027円	99,807,027円				99,807千円	49,903.5千円			
	2	91,108.3km	35,071,229円	21円. 23銭	1,934,229円	33,137,000円	33,137,000円				33,137千円	16,568.5千円			
	3	120,150.0km	46,250,541円	39円. 98銭	4,803,597円	41,446,944円	41,446,944円				41,446千円	20,723.0千円			
合計		518,953.3km	199,765,883円	121円. 78銭	25,374,912円	174,390,971円	174,390,971円				174,390千円	87,195.0千円			
補助ブ ロック名	申請 番号	経常費用から 経常収益を控除 した額 カーヨ＝ム	損失額から国庫 補助額を控除し た額 ムーラ＝ウ	ウの負担者とその負担割合								「その他の者」の具 体的概要			
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担					
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合				
東北	1	99,807,027円	49,903,527円	49,903,500円	100.0%	円	%	円	%	円	%				
	2	33,137,000円	16,568,500円	16,568,500円	100.0%	円	%	円	%	円	%				
	3	41,446,944円	20,723,944円	20,723,000円	100.0%	円	%	円	%	円	%				
合計		174,390,971円	87,195,971円	87,195,000円	100.0%	円	%	円	%	円	%				

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(被災地域地域間幹線系統用)令和10年度

事業者名	福島交通株式会社
------	----------

1. 申請事業者の概要（一般乗合旅客自動車運送事業者及び自家用有償旅客運送者の運行する補助対象系統に限る）

補助対象期間の 前々年度の 損益状況	乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
	営業収益	2,176,669 千円	営業外収益	16,126 千円	経常収益(イ)	2,192,795 千円
	営業費用	3,440,210 千円	営業外費用	1,505 千円	経常費用(ロ)	3,441,715 千円
	営業損益	△ 1,263,541 千円	営業外損益	14,621 千円	経常損益	△ 1,248,920 千円
補助対象期間の 前々年度の 実車走行キロ(ハ)	8,940,787.6 km				経常収支率	63.71 %

2. キロ当たり補助対象経常費用及び経常収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行キロ 当たり経常費用 ロ÷ハ＝ニ	キロ当たり経常収益 イ÷ハ＝ト	※一般貸切旅客自動車運送事業者及び一般乗用旅客自動車運送事業者の場合は補助対象系統に係る実車走行キロ 当たり経常費用及びキロ当たり経常収益を記載し、算出の 考え方及び算出根拠を添付すること。
東北	384円. 94銭	245円. 25銭	
	円 銭	円 銭	

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助ブ ロック名	申請 番号	運行 系統名	運行系統			計画運行 回数 () ①＝カッコ内	計画平均乗車 密度 ②	計画輸送量 ①×②＝③	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 都道府県外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外乗 入部分及び同一 補助ブロック都道 府県外乗入部分 以外のキロ程の 比率 (チー(リナス))÷チ＝ヲ
			起点	主な 経由地	終点				チ		リ		ヌ		
東北	1	奥ノ山線(旧奥山線)	福島駅東口	京大病院 川俣営業所	原町駅前	365日	2,198.0 (6.0) 回	1.7	10.2 人	往70.2Km (平均) 復70.3Km	70.2Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	100 %
	2	移転由緒尾	船引駅前	移車庫	落合	365日	1,582.0 (4.3) 回	0.4	1.7 人	往29.3Km (平均) 復28.4Km	28.8Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	100 %
	3	船引・川内	船引駅前	古道車庫	ゆふね	365日	1,338.0 (3.6) 回	0.8	2.8 人	往45.0Km (平均) 復45.0Km	45.0Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	100 %
合計	系統								往144.5Km (平均) 復143.7Km	144.0Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km		

補助ブ ロック名	申請 番号	計画実車走行 キロ ワ	補助対象 経常費用 の見込額 ニ×ワ以下の額 カ	補助対象系統のキ ロ当たり 経常収益 ノ	補助対象系統 の経常収益の 見込額 ノ×ワ以上の額 ヨ	補助対象経常 費用から経常 収益を控除した額 カーヨ＝タ	タのうち補助ブロック外乗入部分及び同一補助ブロック都道府県外乗入部 分以外に係るもの タ×ラ＝ツ	補助対象経費 ナ	計画額 ナ×1/2＝ラ
東北	1	308,538.0km	118,768,617円	60円. 57銭	18,688,146円	100,080,471円	100,080,471円	100,080千円	50,040.0千円
	2	91,281.4km	35,137,862円	21円. 23銭	1,937,904円	33,199,958円	33,199,958円	33,199千円	16,599.5千円
	3	120,420.0km	46,354,474円	39円. 98銭	4,814,391円	41,540,083円	41,540,083円	41,540千円	20,770.0千円
合計		520,239.4km	200,260,953円	121円. 78銭	25,440,441円	174,820,512円	174,820,512円	174,819千円	87,409.0千円

補助ブ ロック名	申請 番号	経常費用から 経常収益を控除 した額 カーヨ＝ム	損失額から国庫 補助額を控除し た額 ムーラ＝ウ	ウの負担者とその負担割合								
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具 体的概要
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	
東北	1	100,080,471円	50,040,471円	50,040,000円	100.0%	円	%	円	%	円	%	
	2	33,199,958円	16,600,458円	16,599,500円	100.0%	円	%	円	%	円	%	
	3	41,540,083円	20,770,083円	20,770,000円	100.0%	円	%	円	%	円	%	
合計		174,820,512円	87,411,012円	87,409,000円	100.0%	円	%	円	%	円	%	

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(被災地域地域間幹線系統用)令和11年度

事業者名		福島交通株式会社													
1. 申請事業者の概要（一般乗合旅客自動車運送事業者及び自家用有償旅客運送者の運行する補助対象系統に限る）															
補助対象期間の 前々年度の 損益状況	乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送														
	営業収益		2,176,669 千円		営業外収益		16,126 千円		経常収益(イ)		2,192,795 千円				
	営業費用		3,440,210 千円		営業外費用		1,505 千円		経常費用(ロ)		3,441,715 千円				
	営業損益		△ 1,263,541 千円		営業外損益		14,621 千円		経常損益		△ 1,248,920 千円				
補助対象期間の 前々年度の 実車走行キロ(ハ)	8,940,787.6 km								経常収支率		63.71 %				
2. キロ当たり補助対象経常費用及び経常収益															
補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行キロ 当たり経常費用 ロ÷ハ＝ニ				キロ当たり経常収益 イ÷ハ＝ト		※一般貸切旅客自動車運送事業者及び一般乗用旅客自動車運送事業者の場合は補助対象系統に係る実車走行キロ 当たり経常費用及びキロ当たり経常収益を記載し、算出の 考え方及び算出根拠を添付すること。								
東北	384円. 94銭				245円. 25銭										
	円 銭				円 銭										
3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合															
補助ブ ロック名	申請 番号	運行 系統名	運行系統			計画運行 回数 () ①＝カッコ内	計画平均乗車 密度 ②	計画輸送量 ①×②＝③	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 都道府県外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外乗 入部分及び同一 補助ブロック都道 府県外乗入部分 以外のキロ程の 比率 (チー(リ+ヌ))÷チ＝ヲ
			起点	主な 経由地	終点				チ	リ	ヌ				
東北	1	船引・川俣線(磐城線)等	福島駅東口	京大病院 川俣営業所	原町駅前	2,190.0 (6.0) 回	1.7	10.2 人	往70.2Km (平均) 復70.3Km	70.2Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	% 100
	2	移転由緒尾	船引駅前	移車庫	落合	1,575.0 (4.3) 回	0.4	1.7 人	往29.3Km (平均) 復28.4Km	28.8Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	% 100
	3	船引・川内	船引駅前	古道車庫	ゆふね	1,333.0 (3.6) 回	0.8	2.8 人	往45.0Km (平均) 復45.0Km	45.0Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	% 100
合計	系統								往144.5Km (平均) 復143.7Km	144.0Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	. Km	
補助ブ ロック名	申請 番号	計画実車走行 キロ ワ	補助対象 経常費用 の見込額 ニ×ワ以下の額 カ	補助対象系統のキ ロ当たり 経常収益 ノ	補助対象系統 の経常収益の 見込額 ノ×ワ以上の額 ヨ	補助対象経常 費用から経常 収益を控除した額 カーヨ＝タ	タのうち補助ブロック外乗入部分及び同一補助ブロック都道府県外乗入部 分以外に係るもの				補助対象経費 ナ	計画額 ナ×1/2＝ラ			
							タ×ラ＝ツ								
東北	1	307,695.0km	118,444,113円	60円. 57銭	18,637,086円	99,807,027円	99,807,027円				99,807千円	49,903.5千円			
	2	90,877.5km	34,982,384円	21円. 23銭	1,929,329円	33,053,055円	33,053,055円				33,053千円	16,526.5千円			
	3	119,970.0km	46,181,251円	39円. 98銭	4,796,400円	41,384,851円	41,384,851円				41,384千円	20,692.0千円			
合計		518,542.5km	199,607,748円	121円. 78銭	25,362,815円	174,244,933円	174,244,933円				174,244千円	87,122.0千円			
補助ブ ロック名	申請 番号	経常費用から 経常収益を控除 した額 カーヨ＝ム	損失額から国庫 補助額を控除し た額 ムーラ＝ウ	ウの負担者とその負担割合								「その他の者」の具 体的概要			
				都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担					
				負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合				
東北	1	99,807,027円	49,903,527円	49,903,500円	100.0%	円	%	円	%	円	%				
	2	33,053,055円	16,526,555円	16,526,500円	100.0%	円	%	円	%	円	%				
	3	41,384,851円	20,692,851円	20,692,000円	100.0%	円	%	円	%	円	%				
合計		174,244,933円	87,122,933円	87,122,000円	100.0%	円	%	円	%	円	%				

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(被災地域地域間幹線系統用)

事業者名	新常磐交通株式会社
------	-----------

1. 申請事業者の概要 (一般乗合旅客自動車運送事業者及び自家用有償旅客運送者の運行する補助対象系統に限る)

補助対象期間の 前々年度の 損益状況	乗 合 バ ス 事 業 ・ 自 家 用 有 償 旅 客 運 送					
	営業収益	587,152 千円	営業外収益	61,778 千円	経常収益(イ)	648,930 千円
	営業費用	1,021,820 千円	営業外費用	8,993 千円	経常費用(ロ)	1,030,813 千円
	営業損益	△ 434,668 千円	営業外損益	52,785 千円	経常損益	△ 381,883 千円
補助対象期間の 前々年度の 実車走行キロ(ハ)	2,377,065.8 km				経常収支率	62.95 %

2. キロ当たり補助対象経常費用及び経常収益

補助対象事業者の実車走行 キロ当たり経常費用 ロ÷ハ＝ニ	キロ当たり経常収益 イ÷ハ＝ト	※一般貸切旅客自動車運送事業者及び一般乗用旅客自動車運送事業者の場合は補助対象系統に係る 実車走行キロ当たり経常費用及びキロ当たり経常収益を記載し、算出の考え方及び算出根拠を添付すること。
433 円 64 銭	272 円 99 銭	
円 銭	円 銭	

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

申請 番号	運行 系統名	運行系統			計画運行 回数 () ①＝カッコ 内	計画平均 乗車密度 (②)	計画輸送量 (①×②＝③)	系統キロ程		補助ブロック外 乗入部分のキロ程		同一補助ブロック 都道府県外乗入 部分のキロ程		補助ブロック外 乗入部分及び 同一補助ブロック 都道府県外乗入 部分以外の キロ程の比 率 (「ター(リナズ)」×「チ＝フ
		起点	主な 経由 地	終点				チ	リ	ヌ	フ	ナ	ズ	
1	いわき～富岡	いわき駅前	榎原町駅	富岡駅前	291 日	1,114 回 (3.0)	1.2	3.6 人	往41.5Km 復41.5Km	(平均) 41.5Km	往 . Km 復 . Km	(平均) 復 . Km . Km	往 . Km 復 . Km	100%
2	上三坂～ゆふね	小野新町	上三坂	上三坂	241 日	723 回 (3.0)	0.1	0.3 人	往50.2Km 復50.2Km	50.2Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	100%
3	川内～富岡	車庫前	寺門	富岡駅前	241 日	723 回 (3.0)	0.4	1.2 人	往33.9Km 復33.9Km	33.9Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	100%
4	富岡～浪江	富岡駅前	大和町駅	FH2R	241 日	964 回 (4.0)	0.1	0.4 人	往38.8Km 復40.7Km	40.2Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	100%
合計	4系統								往 . Km 復 . Km	165.4Km	往 . Km 復 . Km	. Km	往 . Km 復 . Km	

申請 番号	計画実車走行 キロ ワ	補助対象 経常費用 の見込額 ニ×ワ以下の額:カ	補助対象系統 のキロ当たり 経常収益 ノ	補助対象 系統の経 常収益の 見込額 ノ×ワ以上の額:ホ	補助対象経常 費用から経常 収益を控除した額 カーヨ＝タ	タのうち補助ブロック外乗入部分及び同一補助ブロック都道府県外 乗入部分以外に係るもの タ×ヲ＝ツ	補助対象経費 ナ	計画額 ナ×1/2＝ラ
1	92,462.0km	40,095,221円	79円 30銭	7,332,236円	32,762,985円	32,762,985 円	32,762 千円	16,381.0 千円
2	72,589.2km	31,477,580円	33円 96銭	2,465,129円	29,012,451円	29,012,451 円	29,012 千円	14,506.0 千円
3	48,441.0km	21,005,955円	46円 20銭	2,237,974円	18,767,981円	18,767,981 円	18,767 千円	9,383.5 千円
4	77,602.0km	33,651,331円	34円 22銭	2,655,540円	30,995,791円	30,995,791 円	30,995 千円	15,497.5 千円
合計	291,094.2km	126,230,087円		14,690,879円	111,539,208円	111,539,208 円	111,538 千円	55,768.0 千円

申請 番号	経常費用から 経常収益を控除 した額	損失額から国庫 補助額を控除し た額	ウの負担者とその負担割合									
			都道府県		市区町村		その他の者		事業者自己負担		「その他の者」の具 体的概要	
			負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合	負担額	負担割合		
1	32,762,985円	16,381,585円	円	%	円	%	円	%	円	%		
2	29,012,451円	14,506,451円	円	%	円	%	円	%	円	%		
3	18,767,981円	9,384,481円	円	%	円	%	円	%	円	%		
4	30,995,791円	15,498,291円	円	%	円	%	円	%	円	%		
合計	111,539,208円	55,771,208円	円	%	円	%	円	%	円	%		

表3 別表28の補助事業の基準ハに基づき、県協議会等が「広域行政圏の中心市町村※に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧

都道府県名	広域行政圏名	市町村名	指定の理由
福島県	郡山市周辺地域(郡山市、須賀川市、田村市、石川町、小野町他)	田村市	旧郡山地方広域市町村圏組合の北東部に位置し、大方病院(病床数40)などの医療機関、県立船引高校などの教育機関、田村建築共同職業訓練校、大規模なスーパーやホームセンターなどがあり、広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されていると認められる。
	郡山市周辺地域(郡山市、須賀川市、田村市、石川町、小野町他)	小野町	旧郡山地方広域市町村圏組合の東部に位置し、公立小野町地方総合病院(一般病床60)などの医療機関、県立小野高校などの教育機関、大規模なスーパーやホームセンターなどがあり、広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されていると認められる。

※ 広域行政圏の中心市町村

白河市、原町市、相馬市、喜多方市、二本松市、会津若松市、富岡町、郡山市、須賀川市、福島市、田島町 (市町村名は、H13.3.31現在での表記)

表 4 別表 2 8 の補助事業の基準ニに基づき、県協議会等が平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めた系統の概要

番号	系統名	理 由	福島県	
			土曜	日曜祝日
2	川内～小野～上三坂	主な利用者が、福島県立小野高校の学生と、小野町総合病院への通院者であり、土曜・日曜の利用者が殆どいないと思われるため	0	0
3	川内～富岡	主な利用者が、福島県立ふたば未来学園高校の学生と、ふたば医療センターへの利用者であり、土曜・日曜の利用者が殆どいないと思われるため	0	0
4	富岡～浪江	主な利用者が、富岡町・大熊町・双葉町・浪江町の役場利用者など公共施設の利用者と、浪江町にある福島水素エネルギー研究フィールドの通勤者・見学者であるため、土曜・日曜の利用者が殆どいないと思われるため	0	0

(記載要領)

- ・「番号」の欄には、今年度補助を受けようとする系統の一連番号から抽出して記載
- ・「系統名」の欄は、「番号」の欄に対応した系統を記載
- ・「理由」の欄は、生活交通の確保に支障がないとした理由を記載